東京支部100年の歩み

東京支部長　池田　博昌

大阪大学工業会の前身である同窓会「大阪工業倶楽部」が、大阪高等工業学校（1896年（明治29年）５月18日創立）の創立25周年に当たる1919年（大正８年）３月に学校主導のもとで設立された。そして、1971年３月に「公益社団法人大阪大学工業会」として法人化され、さらに2012年４月に「一般社団法人大阪大学工業会」へと移行された。一昨年には大阪大学工業会の創立100周年を迎え、記念式典が挙行された。

大阪工業倶楽部の名簿を見た在京の卒業生が東京市およびその付近に二百数十名が在住することを知り、有志と計らって1920年（大正９年）３月６日に日比谷公園内松本楼で東京支部発会懇親会を開催し、約100名の卒業生が集まる盛大な発会式となった。そして昨年には東京支部創立100周年を迎えるに至った。

支部発会の挨拶で、「兎に角皆が集まって顔を見て話をすればいいんだ」で始まり、運営については支部長はおかず、世話役（明治42～45卒）を20人くらいとし、年に１～２回の集まりをしようということが決議された。この頃の中心人物は、関根　博（応化　明33）、後藤雅喜（機械　明43）、倉橋藤治郎（窯　明43）、見並淳造（応化　明42）、河野　瞭（電気　明45）の各氏であった。また、小規模ながら「金曜会」という会が関根氏のお世話で毎週営営と開かれていた。このような形式で、1943年（昭和18年）の新年会まで運営されてきたが、第２次世界大戦が熾烈になるにつれ、同窓会は中断せざるをえない状況となった。

戦後初の大阪工業倶楽部総会は1947年（昭和22年）５月に開催されたが、東京支部は少し遅れて1950年（昭和25年）１月に支部総会を開催した。この段階で、支部長を置くことが決まり、関根　博氏（応化M33）が初代東京支部長に就任された。これからの歴代支部長を列記すると、関根（任期２年）、野沢弘幸（機械　大03、７年）、福元　稔（機械　明43、６年）、藤森龍麿（電気 大03、２年）、高橋徳十（採鉱 大15、19年）、高坂憲三（造船12、６年）、竹内哲夫（精密27、２年）、榊原純哉（応化20、８年）の各氏であり、2002年（平成14年）10月に筆者が９代目を引き継いでいる。

ここで、現在の東京支部での各種行事の歴史について述べることとしたい。

まず四大行事と称している「総会」「ビールの会」「秋の集い」「新年会」であるが、これらには最近では60名程度の会員の参加が得られている。総会については、最初の支部総会が1950年（昭和25年）１月28日に銀座の東会館で開催され、その後会場は転々と変わっていたが、時代が移り高橋支部長の時代に1971年（昭和46年）から1986年（昭和61年）までは銀座の交詢社で開催されるようになっていた。そして高坂支部長に代替わりしてからは竹橋会館（現在のＫＫＲホテル東京）に移り、以来現在に至るまで続いている（一時期学士会館としたこともあるが）。また、開催時期は福元支部長就任の1959年（昭和34年）以来10月であったが、一般社団法人への移行に伴い会計年度を変更し2010年（平成22年）から５月に変更している。

次に「ビールの会」であるが、高坂支部長が大谷雄一郎氏（醸造37、当時・サントリー府中工場長）にお願いして企画されたもので、1987年（昭和62年）から始まり、ビール会社４社（サントリー、アサヒビール、キリンビール、サッポロビール）を順次回り持ちで８月第一土曜日に開催されてきた。2001年（平成13年）からは、キリンビールを除く３社で実施されてきたが、2005年（平成17年）には、再びキリンビールにお願いできることになった。そして2019年（令和元年）には第32回をサントリービール株式会社武蔵野ビール工場で開催し、75名の参加者で賑やかな会合となった。なお、2018年（平成30年）の第31回では三宅正夫氏（醸造18、満100歳）がお元気なお姿でご参加になり、人生100歳時代を髣髴とさせる快挙であった。

また、「新年会」については、1952年（昭和27年）に第10回二水会の新年会としてスタートしたので、１月・第２水曜日となっていたが、2014年（平成16年）１月からは参加者の希望により、会社の新年会との重複を避ける意味で、１月の下旬に時期をずらすこととなった。会場はＫＫＲホテル東京・孔雀の間で、100名を目標としている。これにより二水会は１月にも開催されている。高坂氏の記事から昭和43年の参加者が43名、昭和44年には44名、さらに昭和62年にも62名と面白い現象が見られたとある。

さらに、「秋の集い」であるが、「東京明治会」（1959年頃には明治33年～大正３年卒までの136名が健在であった）として会が開かれていたが、対象範囲を広げようとの話が持ち上がり、1964年（昭和39年）５月18日に大正の卒業生まで広げた会の第１回が

開かれ、『毎年大阪高等工業学校の創立記念日５月18日に近い日に、明治・大正の時代の卒業生を対象として明治大正会を開く』として「明治大正会」が誕生した。高橋支部長の時代になり、1969年（昭和44年）から1986年（昭和61年）までは４月の第１土曜日に観桜会として上野公園の韻松亭で開かれていた。その後、高坂支部長の代になり1987年（昭和62年）から開催日を新緑の５月18日に近い土曜日に変更し、会場を皇居が眼下に眺められる竹橋会館（現在のＫＫＲホテル東京）に移した。このときから参加者は明治卒の方はおられなくなり、大正と昭和一桁卒の方が招待された。1989年（平成元年）からは『卒業後50年以前の先輩方をお招きして、支部役員も参加しての懇親会』に拡大して、会場を日本倶楽部（有楽町）に移して開催されることになった。そして会の名称を「五月の集い」に変更することにした。榊原支部会長（1988年（昭和63年）10月～2010年（平成22年）５月の期間では支部会長の呼称を使用していた）の代になり、1998年（平成10年）からは『卒業後40年以上の会員』に範囲が拡大された。さらに2003年（平成15年）から『卒業後40年以上の枠』をなくし、「土曜日の昼の会」としてできるだけ多くの方の参加を募ることとした。2004年（平成16年）には会場を後楽園・函徳亭に変更し、卒業40年の会員については会費を割引することとした。2007年（平成19年）からは講演会を実施し、会場を有楽町の日本倶楽部に移し、会費割引を卒業後35年の会員に変更した。2010年（平成22年）から公益法人の見直しにより支部の会計年度を４月から翌年３月に変更することとなり、総会を５月に開催するように変更した。これに伴い「五月の集い」を10月に移し、新企画のもとで開催するように変更した。呼称を「十月の集い」とし、この機会に趣旨を変更し、大阪大学工業会の若手会員（50代・60代）に交流の機会を提供し、相互の親睦を図り、異業種交流や定年退職後の社会貢献等の情報を提供する「OKC若手交流会」と称する会とした講演会･懇親会に衣替えした。この時期から会場は幹事が選定するようになり種々の場所に移るようになってきた。2011年（平成23年）には呼称を「秋の集い」と変更して現在に至っている。

続いて、月例会としての「二水会」「二日会」について述べる。「二水会」は1951年（昭和26年）４月11日に木村　浩氏（造船　明42）の呼びかけで第１回が目黒駅前の東横食堂で開催され、『明治に造船・舶用機関を卒業した方々の昼食会』として発足しており、「二つの水に関係のある学科の会合ということで二水会」と命名され、毎月第２水曜日（祝祭日でも開催）に昼食会として始まった。第５回に機械・醸造・応化の卒業生も加わり、以後全学科の会合とすることとなり、ＯＫＣの行事の一つとなった。会合は正午から午後１時まで開催されていて、会場は色々と移転して、1981年（昭和56年）2月からは渋谷・東急プラザ９階「紅花」で開催していたが、2005年（平成17年）１月から「レストラン・ポールスター」（丸の内）に会場を移し、時間も11時～13時と早くなっている。2008年（平成20年）からは食事会の前に講話を行っている。2018年（平成30年）２月には800回を迎え、昨年末２月には824回となった。

また、「二日会」は1956年（昭和31年）２月２日に現役の若い卒業生も会社の帰りに立ち寄ることができるようにとの趣旨で、グリル･ハッピー（有楽町）で第１回が発足し、毎月２日に開催している。ただし、２日が土曜日、日曜日、祝祭日にあたる場合はその直後の平日（月曜日または火曜日）に開催する。会場は色々な場所が使われてきたが、2015年（平成27年）2月からニュートーキョーグループの「さがみ」（有楽町）に移った。そして、2019年（令和元年）11月には700回を迎えた。「二水会」は高齢の方や夜の会への参加が厳しい方の集まり、「二日会」は比較的若い方々の集まりで各種行事の打ち合わせの場としても機能している。

次いで、各種の同好会活動の様子を述べる。活動期間の長い順に列挙する。

（１）ゴルフ同好会：本部でのＯＫＣゴルフ同好会の記事に示された盛況さに羨ましさを感じ、東京支部でも始めるべく有志の動きがあり、藤森支部長の時代の1966年（昭和41年）５月４日に相模原ゴルフ倶楽部で第１回が開かれ、年に春秋２回の開催が申し合わされた。
そして、53年が経過して2019年（令和元年）10月には110回を迎えるまでになった。会の運営は常任幹事として前田幸介氏（電子42）が担当している。
また、2013年（平成25年）１月から経済学部・法学部の卒業生初打ちゴルフコンペにＯＫＣの会員が合流することになり、三学部対抗ゴルフコンペが始まった。これまでに８年が経過してきたが、毎回16名前後のＯＫＣ会員が参加し、団体優勝を４回、個人優勝を３回（すべて河合　真氏（産機47））と楽しい会合となっている。

（２）旅行同好会：支部としての旅行会としては、高橋支部長が自分で創められたのが秋の旅行会である。はじめは小さい有志の旅行であったが、1978年（昭和53年）秋からは20～30名の旅行となり、二水旅行会と名づけられ、軌道

に乗ってきた。1986年（昭和61年）10月には第16回の旅行会として、就任したばかりの高坂支部長がそれまで旅行幹事であったので幹事を務められ、湯西川・老神温泉と榛名湖への二泊三日の旅を挙行された。その後は暫く中断していたが、榊原支部会長の代になって、1997年（平成9年）12月に後藤　博氏（冶金30）が幹事となって、箱根への一泊忘年会旅行が行われ、これがきっかけとなり、毎年年末に挙行され、2005年（平成17年）まで続いた。特に2002年（平成14年）11月には初めて海外に足を伸ばすことになり、６名での中国長江三峡への四泊五日の旅となった。このあと少しの中断があり、2008年（平成20年）12月の「熱海での冬の花火を楽しむ会」を西澤定律氏（通信33）のお世話で再開して、新しい旅行の会が続けられ現在に至っている。

（３）囲碁同好会：この会は二日会開催日の午後に開催される事として、1999年（平成11年）２月２日に日本棋院で第１回が開催された。会の世話役は当時の副支部長をお務めの服部　毅氏（精密27、囲碁６段）であった。会場はその都度変更があったが、順調な展開を見せている。2011年（平成23年）５月からは世話役代表者が正木　喬氏（造船34）に引き継がれて現在に至っている。

（４）スキー同好会：二日会の席上スキー愛好家の多いことが分かり、スキー同好会を結成する機運が高まり、2004年（平成16年）５月15日の役員会に諮り承認を得たので、関根和郎氏（造船30）を代表幹事として、2005年（平成17年）１月から同好会としてのツアーが始まった。ツアーは11月から３月までに３～５回行われ、東京支部だけでなく、大阪支部、長野県からも参加があり、楽しい会として運営されている。代表幹事は2008年（平成20年）１月から城戸二郎氏（機械39）に、そして2016年（平成28年）１月から久保田勉氏（機械39）にと引き継がれてきている。

（５）カラオケ同好会：2013年（平成25年）５月の支部総会の懇親会の最後に「大阪高等学校全寮歌」の合唱（指導：西澤定律氏（通信33））があり、これを契機として参加者の一部から同窓生の交流の場の一つとしてカラオケ同好会の企画が提案された。松田安弘（機械44）・西澤定律・長田勇雄（建築35）の３氏が発起人となり、2013年（平成25年）12月に第１回が開かれ、カラオケ同好会がスタートした。世話人に峯松宏之氏（造船45）他を加えて年に３回程度のペースで運営され、2019年（令和元年）10月には第19回を数えるに至った。参加者は猛者ぞろいで、８名の参加でも二部屋に分かれて午後の４時間位を歌い放題とする活躍ぶりである。世話人の代表は松田安弘氏が務めている。

以上が現在までの支部の活動履歴であるが、支部の会員（会費を納入している卒業生）は1993年には2700名余と伝えられているが、現在では2200名弱にまで減少している。以前から若い卒業生の同窓会への関心が弱くなっているとは聞いてきたが、実数を目にすると考え込まざるをえない。とは言っても会の活性化を考慮した運営に努力を重ねてきている。支部の役員は副支部長を６人体制｛久保田　勉（機械39）・佐久間英雄（醗酵48）・門屋輝慶（溶接48M）・笠井良太（電気47）・峯松宏之（造船45）・木邑　正（土木44）の各氏｝としてグループ化し、各行事への参加勧誘に努力してもらっている。各グループには若手の学科委員を６名ずつ配置し、縦横斜めへの連絡体制が取れるよう図っている。

支部の100年を迎えたわけあるが、人生100歳時代に向けての同窓会活動のあり方については今後とも前向きに取り組んでゆきたい。

最後になりますが、東京支部の会員各位におかれましてはどうか温かいご配慮とご協力をお願いする次第であります。宜しくお願い申し上げます。

参考文献

（１）鈴木　胖：「大阪大学工業会100年のあゆみ」
テクノネット588号、2020年４月
（２）一世話人：「東京支部発会大懇親会」
大阪工業倶楽部会誌９号、1920年３月
（３）野沢弘幸：「東京支部10年回顧」
大阪工業倶楽部・会報　334号、1960年１月
（４）高坂憲三：「大正から昭和へ　そして
東京支部物語」
大阪大学工業会・会報　455号、1987年1月
（５）高坂憲三：「東京支部物語（続）」
大阪大学工業会・会報　459号、1988年1月
（６）竹内哲夫：「新年を迎えて」
大阪大学工業会・会報　479号、1993年1月

（通信　昭和34年卒）